

4 日本農林漁業振興会会長賞受賞者の業績概要

農産部門

出品財 経営（大豆）

あべ しんいち
阿部 真一 氏

ながおかし
新潟県長岡市



1. 地域の概要

長岡市は、新潟県のほぼ中央部に位置し、水稲の生産を中心とした、県内でも有数の「コシヒカリ」産地である。

戦略作物としては、ブロックローテーションの実施を背景に、大豆の生産が多く、県内の主産地となっている。

2. 受賞者の取組の経過と経営の現況

阿部氏は、家族経営で大豆＋水稲の土地利用型農業を営んでおり、平成26年度の作付面積は、大豆6.2ha・水稲5.7haの計11.9haである。

大豆については、集落内でブロックローテーションによる団地化が進められており、阿部氏はその大豆生産を一手に引き受けている。

3. 受賞者の特色

(1) 条件不利地域を克服した高い収量性的大豆

本地域は排水性が悪く大豆栽培に適しているとはいえない地域であるが、耕耘同時畝立て播種の導入、弾丸暗きょや明きょの完全施工等による排水対策の徹底等により、全国・新潟県の平均単収を大きく上回る収量を安定的に維持している。

(2) 食味・品質において高い評価を受ける水稲

もう一方の経営の柱である水稲についても、JA越後ながおか主催の「こめの匠コンテスト」で初代“匠”に認定されているほか、全面積で特別栽培に取り組んでおり、その技術力と食味・品質は高い評価を得ている。

4. 普及性と今後の発展方向

「きめ細やかな管理と基本技術の徹底」の確実な実践を踏まえ、新技術導入による省力化・低コスト化も組み込んで、安定した高収量と高品質を実現している阿部氏の営農体系はモデル性がある。

また、大豆作付ほ場の団地化とブロックローテーションの実施に当たって、阿部氏の誠実な人柄と高い技術力などは、地区内の合意形成を円滑にしてきた。

阿部氏は、今後も集落の大豆生産を一手に担うとともに、水稲部門においても、離農に伴う農地の受け皿となることに意欲を見せるなど、今後も地域水田農業を支えていく方針であり、かつ、その高い技術力と農業・人に対する誠実な取組姿勢の伝承が期待されている。